

# 広島都市学園大学雑誌【健康科学と人間形成】 投稿規程

学術誌編集委員会

## 1 概要

本学は学術誌として、和文名：広島都市学園大学雑誌【健康科学と人間形成】；英文名：Journal of Hiroshima Cosmopolitan University [Health Sciences and Human Formation] を発行する、内容は看護学・リハビリテーション・健康科学および教育学やその周辺領域に関する研究論文や報告などを掲載し、当該領域の発展の寄与および本学の研究、教育活動に関する外部への情報発信を行うことを目的に、広島都市学園大学学術誌編集委員会（以下委員会と略）が編集する。

## 2 投稿資格

- 1) 本大学の教職員（含、非常勤）、共同研究者
- 2) 委員会の議をへて委員長が執筆依頼をした者
- 3) 委員会が適当と認めた者

## 3 倫理とインフォームドコンセント

- 1) ヒトを対象とした研究の場合は、対象者からの同意を得て匿名性には最大限の配慮をする。
- 2) ヘルシンキ宣言の倫理原則を遵守し、倫理委員会規則等に従う。倫理委員会の承諾をえたものはその旨を方法のところに明記する。動物実験の場合は、文部省（現文部科学省）の策定したガイドラインや各施設の動物実験委員会規則等に従う。
- 3) 研究が公的・私的機関より支援を受けた場合には、資金提供を受けた機関名などを明記し、COI(利益相反)の関係は申告(様式3)する。

## 4 原稿の執筆と種別

原稿は別掲の原稿執筆要領にしたがって日本語あるいは英語で執筆する。種別は『総説』、『原著』、『短報』、『速報』、『報告』、『症例研究』、『解説』、『講座』（種別の概要参照）などとし、未発表のものに限る。但し編集部の判定により種別の変更を求める場合がある。また、特別寄稿などを掲載することもある。

種別の概要

- 1) 総説：特定のテーマについてこれまでに発表された内外の論文を総括し、客観的意見を加えて論じたもの。委員会は投稿を依頼することができる。
  - 2) 原著：独創性があり、新しい知見や情報が含まれている学術的価値の高いもの。
  - 3) 短報：独創性があり、新しい情報が含まれている研究であるが、発展性のある研究であってもよい。
  - 4) 速報：独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究で、早急に報告する必要があるもの。
- この内容は、完成度を高めて本誌あるいは他誌へ原著論文として公表してもよい。
- 5) 報告：以下のいずれかの内容のもの。

- (1) 原著に準ずる研究報告や症例報告

- (2) 役に立つ研究手法・技術の工夫や開発
  - (3) 資料的価値のあるもの
  - (4) 講演などの記録や講演の内容などを中心にまとめたもの
  - (5) 種々の研究費を受けた場合の研究成果報告書
  - (6) 国内外の最新トピックスの紹介
  - (7) その他
- 6) 症例研究：疾病に関する研究や症例の報告で臨床的に重要な意味があるもの。原著とすることもある。
- 7) 解説：興味深い科学的知見や技術について解説し、教育的内容を含むもの。
- 8) 講座：興味深い科学的テーマについて連続して解説し、教育的内容を含むもの。また、本学が中心となり開催した公開講座などの内容をまとめたもの。

## 5 原稿執筆要領

### 1) 一般的注意

原稿は、原則としてコンピューターでワープロソフト（編集の都合上 Word, Microsoft を推奨）で作成する。A4 判白地用紙を縦長にして、上下左右に約 3cm の余白をとり、ダブルスペース、11 ポイントでハードコピーを作成する。

字体の指定（イタリック、ボールド）や JIS 外字などを用いた場合はハードコピーに赤字で指示する。

図(写真)、表の挿入希望位置は原稿左側余白に赤字で記入する。

総説論文・原著（和文）は、総文字数 12,000 字以内、短報、速報は 5,000 字以内、その他の原稿は、8,000 字以内とする。委員会からの依頼原稿の分量は、依頼において指定するところによる。

図(写真)、表なども含めて全ページに通し番号を原稿の下中央に入れ、表紙を第 1 ページとする。

和文論文で英文の抄録を付ける場合、及び英文論文はネイティブスピーカーが校閲したものであること。

### 2) 表紙

(1) 表紙には、和文で種別、表題、著者名、所属、住所を、次に英文で表題、著者名（フルネーム）、所属、住所を記入する。連絡著者にはダガー（†）を付ける。英文論文の場合は、種別のみ和文とする。

(2) 連絡のために、和文で連絡著者名、連絡住所、電話番号、Fax 番号、E-mail アドレスを表紙末に記載する。

(3) 英文論文・抄録は、英文チェック済みであることを示すために、チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名（または会社名）を記入する。

### 3) 抄録

(1) 原稿の第 2 ページに記入する。

(2) 和文論文は原著、短報、総説、研究・症例報告には抄録（400 字以内）と英訳した抄録（300 語以内）を付ける。英文論文の原著には抄録（300 語以内）を付ける。

(3) key words は原稿の内容を的確に表現しうる 3-6 個の単語または句を選び記入する。これらの単語(句)はセミコロンで区切る。原著、短報、総説、症例・研究報告では英訳した key words も付ける。

#### 4) 本文

- (1) 本文は第3ページから始める。
- (2) 本文は原則として、序文、方法、結果、考察、結論、謝辞、文献の順に記す。結果と考察の内容をまとめて結果および考察としてもよい。見出しのレベルはポイントシステムで示す。すなわち、
  - 1 大見出し
    - 1.1 中見出し
      - 1.1.1 小見出しとする。また、「小見出し」以降、および「箇条書き項目」などについては、1), (1), ①の順に用いる。
- (3) 本文中で脚注（備考や注釈など）が必要な場合は、アスタリスク（\*）を語句の右肩に付け、現行の同一ページの下部にその説明を記入する。脚注と本文を区別するには、1行の横線を利用する。
- (4) 記号と符号は国際的に慣用されているものを、また単位は原則としてSI単位(国際単位)を使用する。なお、当該領域において使用が認められている特殊な単位は使用できる。
- (5) 略語は初出時にフルスペルと（略語）を併記し、以下その略語を用いる。
- (6) 欧語表現と日本語表現の選択では日本語が定着している場合には日本語表現を用いる
- (7) 症例報告の場合には西暦年、月までは具体的に示し日付については某日とし、発症当日を1日目として、その後は「発症〇日後」と記載する。
- (8) 英文論文の場合も、上記に準ずる。

#### 5) 文献

- (1) 引用文献は、最小限とし本文中では引用する箇所の右肩にアラビア数字で上ツキの通し番号<sup>(1, 1-5, 1, 6-10)</sup>をつけ、文献欄に引用順に一括掲載する。本文中に著者名を引用する場合は、混乱の起こらない限り姓のみとする。英文誌名の省略は引用雑誌所載の略名を用いる。
- (2) 私信、未発表結果、投稿中の論文、新聞記事、パンフレット、単なる報告書などは文献欄に入れず本文中に括弧に入れて引用する。
- (3) 文献欄における著者名は著者全員を記載する。ただし多数の著者で書かれた文献を引用する場合は、第6著者までを記載し、第7著者以後の著者を、和文の場合は他、英文の場合は et al, で略してもよい。抄録の引用は表題の最後に(会)、欧文発表の場合には(abstr)とする。
- (4) 文献規定が守られていなかったり誤りがある場合には採択されない場合がある。
- (5) 文献の記載は下記のような表記法とする。
  - ① 雑誌：著者名． 題名 - 副題 - ． 雑誌名 西暦発行年；巻(号)：頁 - 頁．
  - ② 書籍：著者名． 題名． 書名． 版数． 発行都市名：出版社名；西暦発行年.p.頁 - 頁．
  - ③ 訳本：著者名． 書名． 版数． 発行都市名：出版社名；西暦発行年.[ 訳者名． 書名． 発行都市名：出版社名；西暦発行年.p.頁 - 頁]
  - ④ 報告書：報告者名． 題名， 年度 報告書名、西暦発行年.p. 頁 - 頁．
  - ⑤ 電子文献：著者名． Web ページの題名． Web サイトまたは電子ジャーナルの名称， (媒体表示)， 入手先<URL>， (参照年月日)

記載例

- 例 1) 富樫誠二. 理学療法士としてのコミュニケーションスキル. 理学療法ジャーナル 2005 ; 39(3) : 267-273.
- 例 2) Ishizaki F, Nishikawa S. Relation of blood serotonin and benzylamine oxidase to clinical symptoms and prognosis in Parkinson's disease. Eur Neurol 1988;28(5):291-294.
- 例 3) Serge Tixa. Atlas d'anatomie palpatoire. Tome 1: Cou, tronc, membre suprieur. 2nd ed., Paris:Masson, 2005. [川口浩太郎, 金子文成, 藤村昌彦, 佐藤春彦訳. 触診解剖アトラス 頸部・体幹・上肢. 第 2 版. 東京, 医学書院, 2007, p.111-152]

## 6) 図(写真)、表

- (1) 図(写真)、表は原則として電子データとする。電子データとすることが不可能な場合は、鮮明なものを、厚紙に貼り付ける。カラーか白黒かを指定する。カラー印刷の場合には実費を徴収する。
- (2) 図(写真)、表には、それぞれアラビア数字で一連の通し番号を付け (Fig. 1, Table 1)、本文中で引用する場合は、Fig. 1, Table 1 のように書く。
- (3) 図(写真)のタイトルと説明文は、本文の最後に一括してまとめる。
- (4) 図表は計 8 個以内とする。

## 7) 謝辞

本文末尾に記載する。

研究助成金を受けた研究の利益相反 (COI) 状態については自己申告書 (様式 3) に記載する。

## 6 原稿の提出

- 1) 投稿は、常時受け付ける。ただし、委員会は、各号の発行に先立って、当該の号の投稿締切日を指定できる。
- 2) 原稿は 3 部提出する。  
正原稿 1 部、副原稿(複写物)2 部と同一内容の電子媒体を提出する。副原稿 2 部には氏名、所属、謝辞を取り外し、著者が特定できないように処理をして提出する。
- 3) 原稿には投稿票 (様式 1)、著者ならびに共著者の同意書 (様式 2)、COI 自己申告書 (様式 3) を添付する。
- 4) 委員会は投稿原稿を受付けたのち投稿者に受付の通知をする。
- 5) 原稿の提出先、照会先は広島都市学園大学学術誌編集委員会とする。
- 6) 投稿された原稿および電子媒体は原則として返却しない。

## 7 審査および査読制度

- 1) 投稿原稿の受理ならびに訂正については、委員会が定めた査読者 (原則として 2 名) の意見をもとに委員会で決定する。
- 2) 査読期間は原則として 3 週間以内とし、再査読は 1 週間以内とする。
- 3) 原稿の修正期間は 3 週間以内とし、再修正は 1 週間以内とする。原稿には修正部分に下線を引く。

各査読者への回答はどのように訂正したか明確に記述する。

## 8 校正

印刷物の校正は著者が行う。その際に加筆・修正・削除は認めない

## 9 著作権

本誌に掲載されたものの著作権は広島都市学園大学に属する。著作権の譲渡に当たって、著者ならびに共著者の同意書（様式2）に著作者全員の自筆署名印をして提出する。

## 10 経費負担

掲載料は1万円とする。字数・図表枚数が制限超過した場合には刷り上がり1頁あたり1万円を徴収する。また、別刷10部まで無料、それを超える場合は30部単位で著者の実費負担とする。

別冊を希望する場合には校正時に申し込む。

## 11 電子化

投稿論文の電子化については、これを承諾したものとする。

## 12 投稿先および照会先

投稿先、照会先は、広島都市学園大学学術誌編集委員会とする。

### 【原稿提出先】

〒734-0014 広島県広島市南区宇品西5丁目13-18

学校法人古沢学園 広島都市学園大学

学術誌編集委員会

TEL 082-250-1133

FAX 082-250-1134

E-mail : 広島都市学園大学附属 図書館 <tosyo-hcu@hcu.ac.jp>

## 13 規程の改廃

- 1 この規程は、平成26年2月1日より施行する。
- 2 この規程は、平成27年4月1日より施行する。
- 3 この規定は、平成28年4月1日より施行する。